

どうし

坂多瑩子

大根を切っていると
窓ごしに
男がよぎっていった

風でとばされた
ぼうしを追っかけている赤毛の男だ
いるな

と思ったら

ぼうしのほうが

あたしのところにきて

水を一杯のんだ

これから旅にでるといふ

たしかにリボンのわきに切符をはさんでいる

ザーツアルマからノマロフ越えて

橋をわたって

ニエスニユススチック停車場から

ぼうしのくせにおしゃべりだ

聞き流しながら

里芋と人参を切って

鍋に湯をわかしていると

台所は湯気のあたりから暗くなりはじめた

夜になっちまった

ぼうしがいった

ずいぶん昔に

お土産って

大叔母さんがくれたグリーンの本紙の本

色の悪い花びらが舞っていて

ぼうしがあご髭をはやしていた

遠い夜のはずれで

赤毛男

ゆくえふめい